

安達太良山

(2017年1月20日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

概況（2016年9月～2017年1月20日）

- ・噴気等の表面現象の状況（図1、図2 - ）
若宮及び鉄山に設置している監視カメラによる観測では、沼ノ平火口からの噴気は認められなかった。
- ・地震活動（図2 - ~ 、図3、4）
火山性地震は少ない状態が続いており、火山性微動は観測されなかった。
- ・地殻変動（図6～8）
GNSS 連続観測及び傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。



図1 安達太良山 沼ノ平火口周辺の状況

- ・左図：若宮（沼ノ平火口の西北西約8km）に設置している監視カメラの映像（12月24日）。
 - ・右図：鉄山（沼ノ平火口の北東約700m）に設置している監視カメラの映像（12月22日）。
- 注）部分的にレンズに氷が付いている（破線赤丸）。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

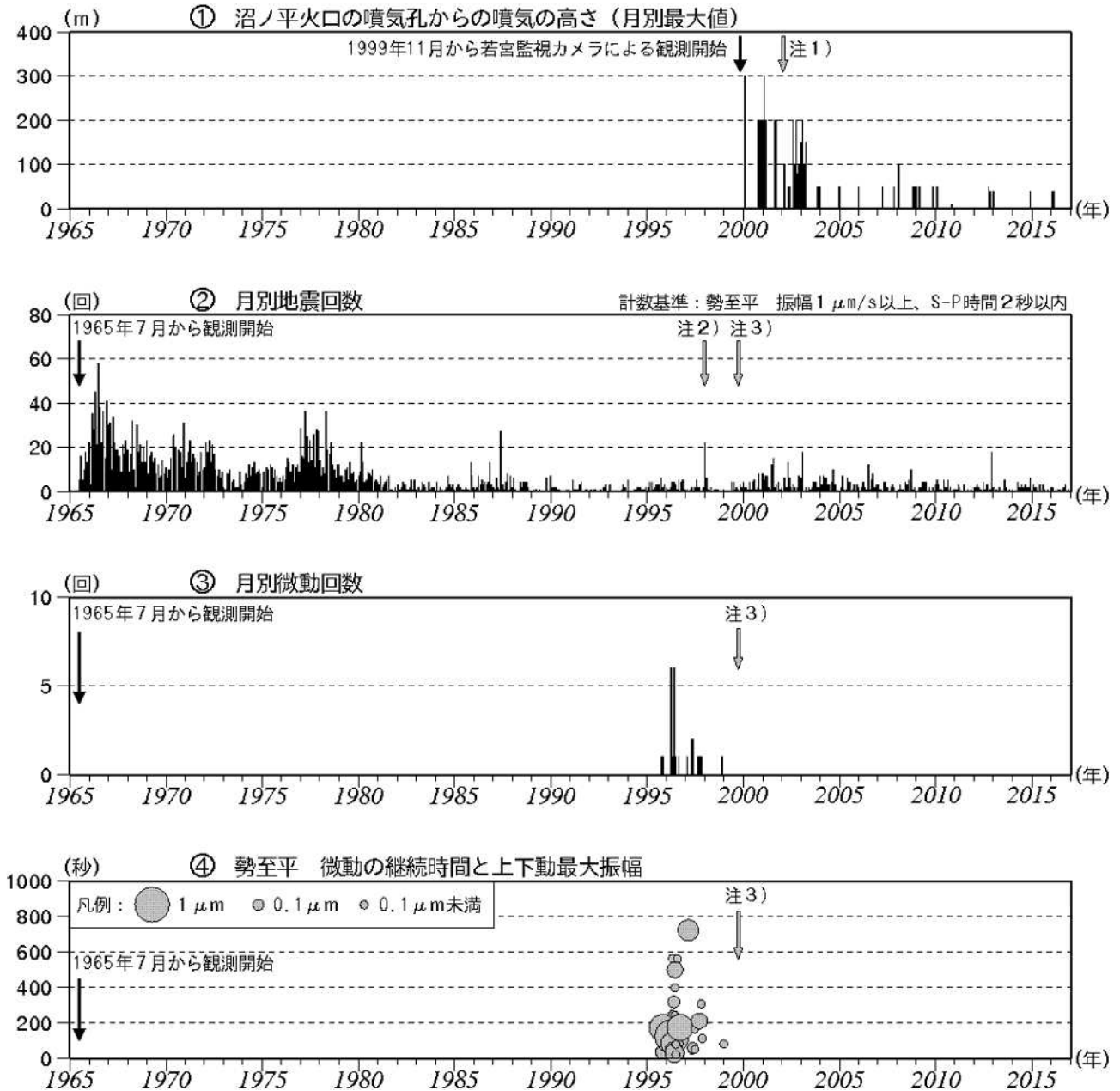
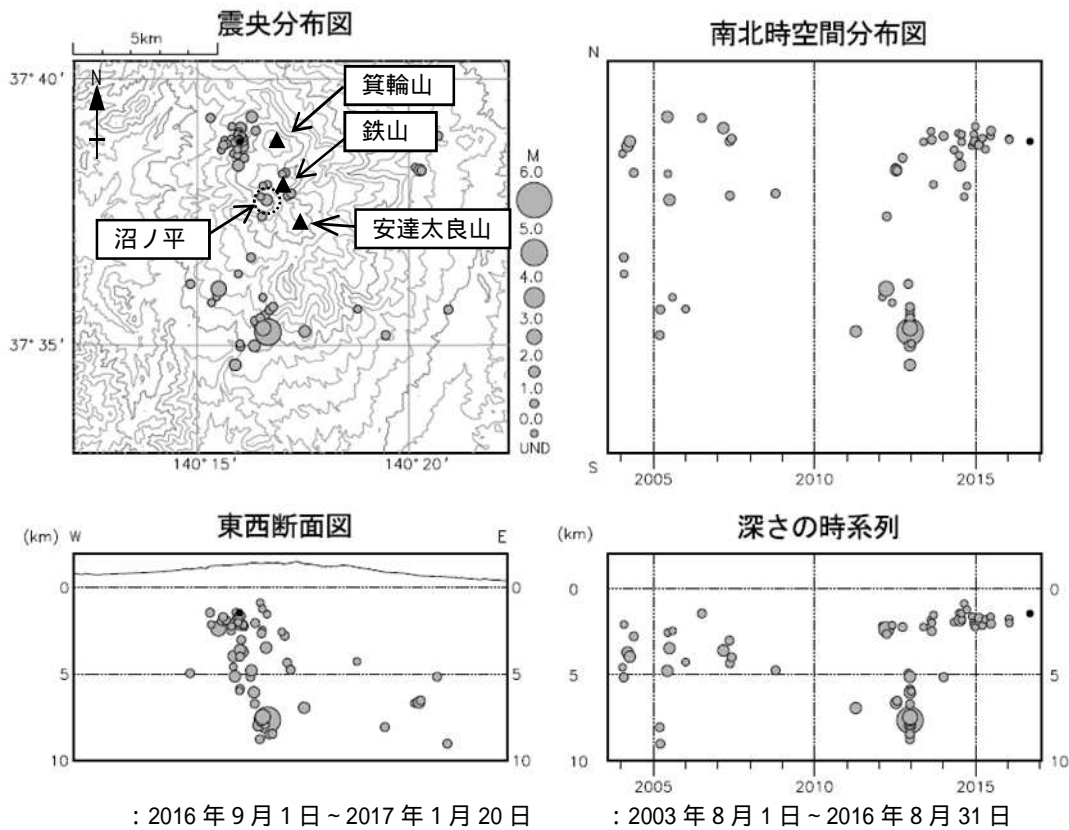


図2 安達太良山 火山活動経過図 (1965年7月~2017年1月20日)

- ・ 注1) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以降は全ての時間で観測したデータによる高さである。
- ・ 注2) 1998年から計数基準をS-P5秒以内よりS-P2秒以内に変更した。
- ・ ~ 注3) 1999年10月に勢至平観測点を新設し、基準観測点を塩沢観測点(沼ノ平火口から東北東約6km)から勢至平観測点(沼ノ平火口から東北東約3km)に変更した。

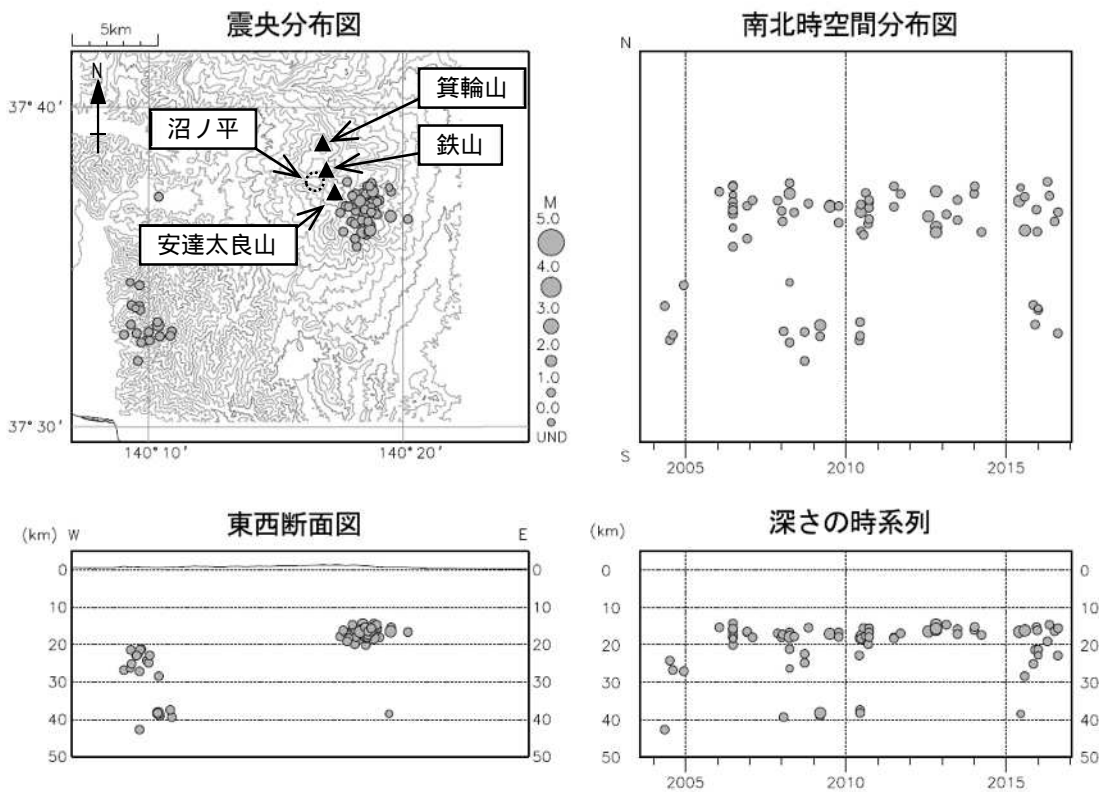


：2016年9月1日～2017年1月20日

：2003年8月1日～2016年8月31日

図3 安達太良山 地震活動（2003年8月～2017年1月20日）

- ・表示条件：相数7相以上、深さフリーで決まった地震
- ・速度構造：成層構造を使用
- ・この地図の作成には、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用した。



：2016年9月1日～2017年1月20日（今期間なし）

：2003年8月1日～2016年8月31日

図4 安達太良山 一元化震源による深部低周波地震活動（2003年8月～2017年1月20日）

- ・この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用した。
- ・表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

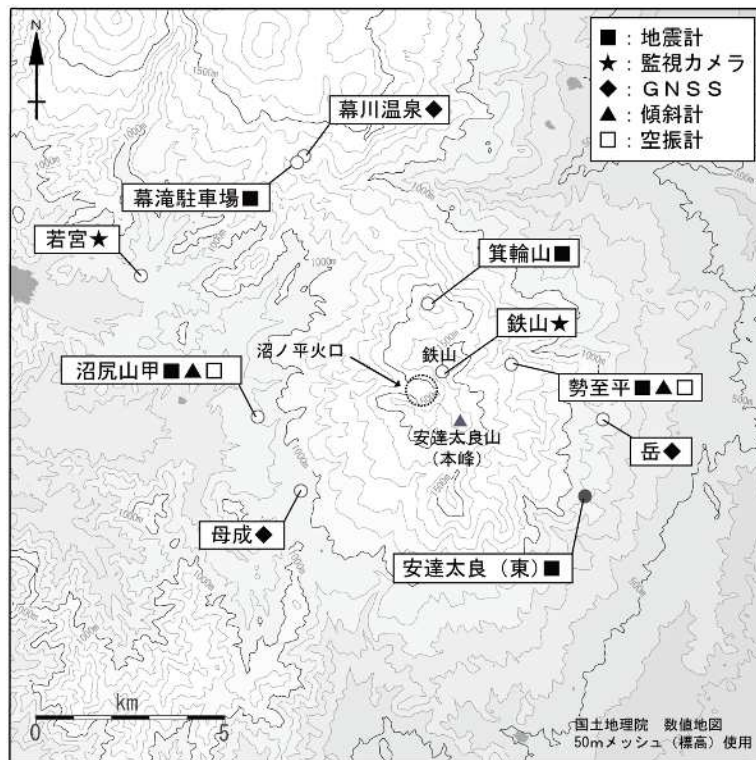


図5 安達太良山 観測点配置図

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。
 (東): 東北大学
 箕輪山、鉄山、勢至平 (傾斜計): 2016年12月1日運用開始。

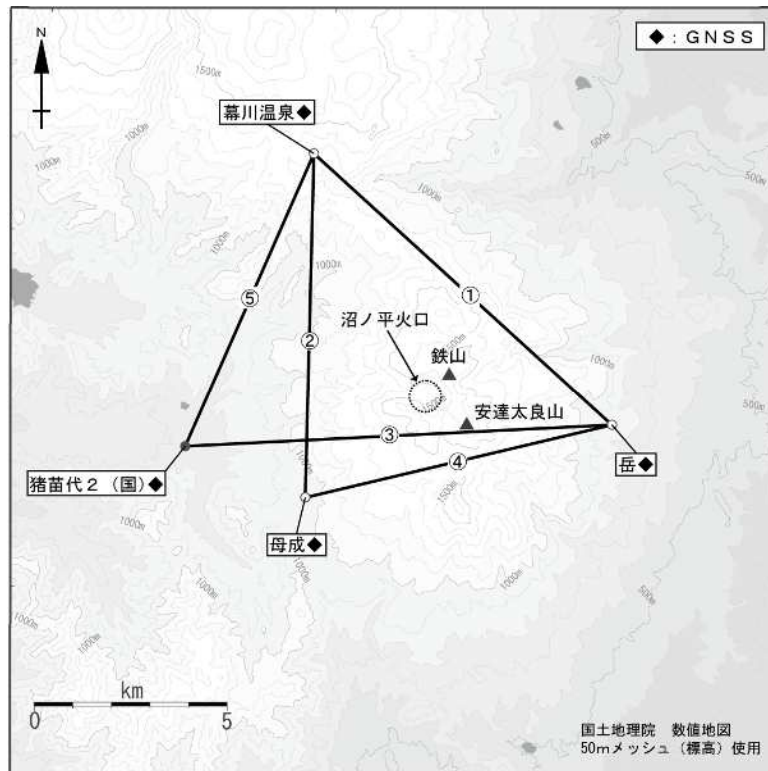


図6 安達太良山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。
 (国): 国土地理院
 GNSS 基線 ~ は図7の ~ に対応している。

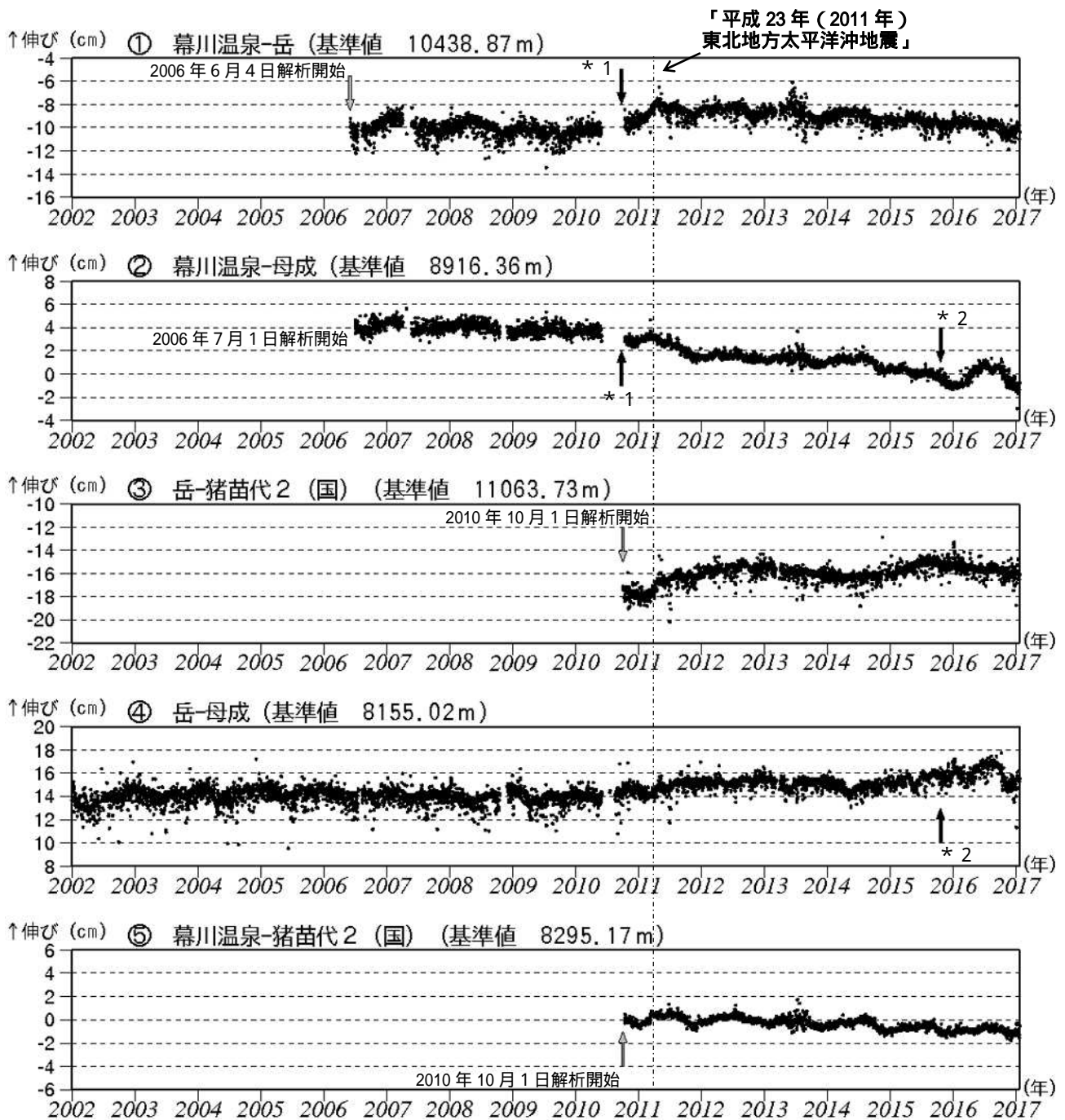


図7 安達太良山 GNSS 基線長変化図 (2002年1月~2017年1月20日)

- ・火山活動に起因する変化は認められない。
- ・2010年10月以降のデータについては解析方法を改良し、対流圏補正と電離層補正を行っている。
- ・平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震に伴うステップを補正している。
- ・ ~ は図6のGNSS基線 ~ に対応している。
- ・グラフの空白部分は欠測を表す。
- ・各基線の基準値は補正等により変更する場合がある。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示す。
- * 1 幕川温泉観測点の機器更新。
- * 2 母成観測点の機器更新。

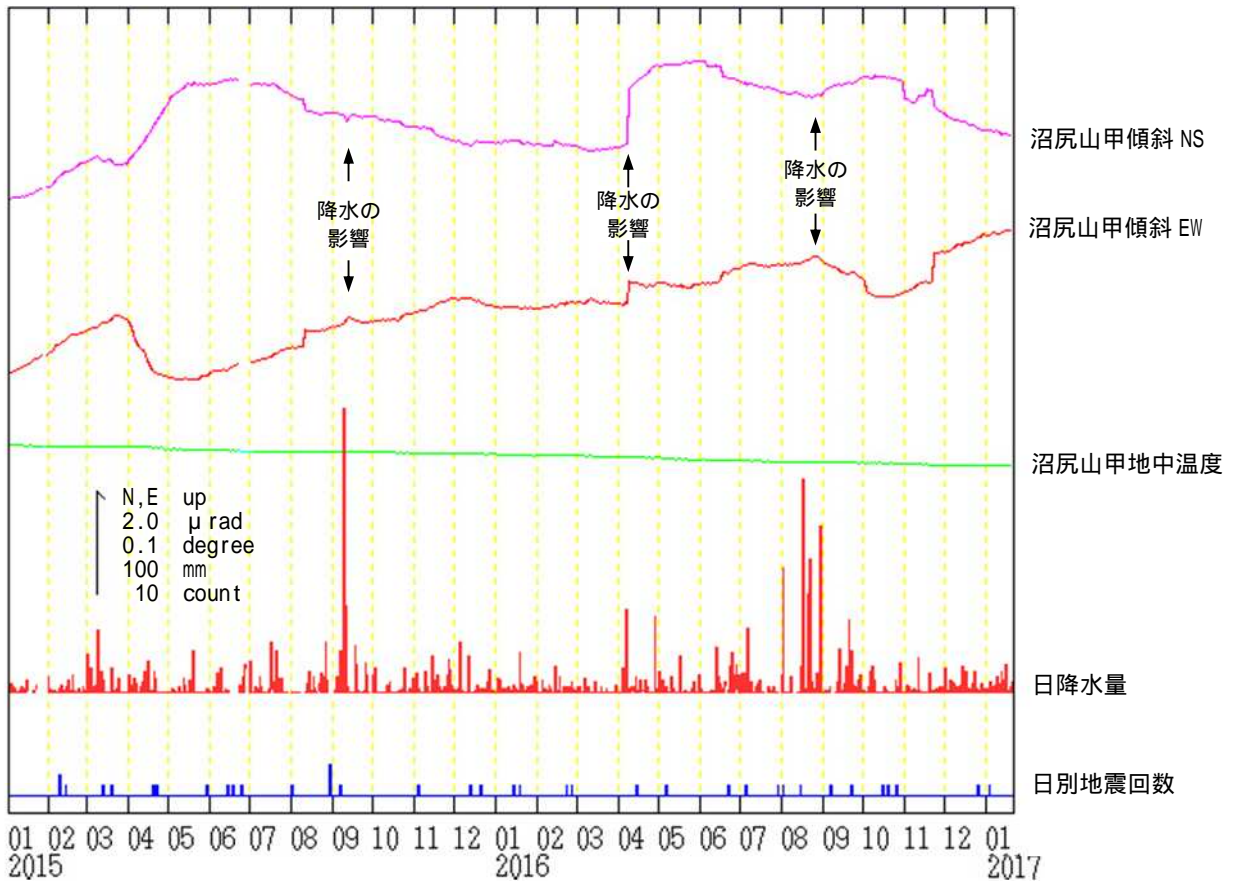


図8 安達太良山 沼尻山甲観測点における傾斜変動
 (2015年1月1日～2017年1月20日、時間値、潮汐補正済み)
 ・火山活動によるとみられる傾斜変動は認められない。
 ・日降水量は鷲倉地域気象観測所で観測された日降水量である。
 ・日別地震回数には深部低周波地震を含む。
 融雪の影響による変動と考えられる。